

発行 我孫子市役所 企画総務部秘書広報課 広報室

〒270-1192 我孫子市我孫子 1858 番地 ☎04-7185-1111 (代表) FAX 04-7185-1520

あれから12年 忘れてはいけない東日本大震災の記憶

平成23(2011)年3月11日、宮城県牡鹿半島の東南東130km付近で深さ約24kmを震源とするマグニチュード9.0の地震が発生。我孫子市でも震度5弱を観測し、布佐地区で液状化などの被害を受けました。

震災から12年が経過し、当時のことを知らない子どもたちもいます。東日本大震災の記憶を風化させないため、当時の被害状況を写真で伝えます。写真は市ホームページ(QRコード参照)でも公開しています。

※液状化とは、地震の振動で地中の土砂が液体状になり、水とともに地表へ出る現象です。

☎ 市民安全課・内線217



東日本大震災の教訓 3つの「助」

自分の命を自分で守る「自助」 地域で協力して助け合う「共助」 市・消防・警察などが救助・援助を行う「公助」

自助 日頃から備える

携帯電話による通話やメールがほとんど使えず、家族などと連絡を取ることが困難でした。また、買い占めが起き、食料や飲料水が品切れ・品薄状態になりました。同じような状況を想定し災害に備えましょう。

- ☑ 家族などと安否確認の方法や集合場所、帰宅経路を確認
- ☑ 帰宅経路にあるコンビニやガソリンスタンドなどの場所を確認
- ☑ 3日以上分の食料や飲料水、携帯ラジオ、地図などを用意

自助 災害発生時は落ち着いて行動する

首都圏の鉄道が運転を見合わせ、多くの方が帰宅困難になりました。帰宅困難者が一斉に移動を始めると、混雑による転倒や建物の倒壊・落下物による負傷の危険があります。むやみに移動せず落ち着いて行動しましょう。

- ☑ 身の安全を確保し、職場や集客施設など安全な場所にとどまる
- ☑ 災害用伝言サービスで家族の安否などを確認
- ☑ 市・消防・警察などの広報やテレビ、ラジオなどで正確な情報を入手

共助 世代を超えて助け合う

復旧・復興は多くの方の助け合いで進められました。被災家屋の片付けを行った我孫子東高校の生徒(写真左)や、被災者を音楽で勇気づけた布佐中学校の生徒(写真右)など、若い世代の協力もありました。いざという時に共助の精神で行動できるように日頃から地域の方とコミュニケーションをとりましょう。



公助 被害を最小限に抑え暮らしを守る

我孫子駅にも帰宅困難者があふれたため、けやきプラザや我孫子南近隣センターなどを開放しました。その他、避難所の開設や仮設トイレの設置、防災行政無線による情報提供などを行いました。災害発生時にできるだけ早く応急対策活動を始められるように備えています。今後も物資の輸送体制の整備など、公助の充実を図ります。

東日本大震災から12年を迎えようとしています。

経験したことのない激しい揺れが起きたあの日、直ちに災害対策本部を立ち上げました。次々と報告される停電、断水、鉄道の運転見合わせ、携帯電話の不通、道路損傷、塀の倒壊などの被害。目の当たりにした布佐地区の液状化。未曾有の被害をもたらした東日本大震災を決して忘れてはいけません。そして、震災を知らない世代に伝えていかなければいけません。

復興に向け地域の皆様と歩んだ5年間。平成28(2016)年3月に復興のシンボル「ふさ復興会館」が完成した時の笑顔は、今も鮮明に覚えています。

災害の発生を防ぐことはできません。被害を最小限に抑えて復興を迅速に行うため、教訓を生かし、自助・共助・公助の体制強化と地域防災力の向上を図ります。

市長 星野 順一郎